



使用済み紙おむつ再資源化について



志武士しまる

令和元年11月14日
志布志市 市民環境課



ごみ焼却施設がない！



平成2年 曾於南部厚生事務組合設立
(志布志町・有明町・大崎町)
一般廃棄物最終処分場
(通称:清掃センター)を建設
(管理型:埋立容量72万立方メートル)

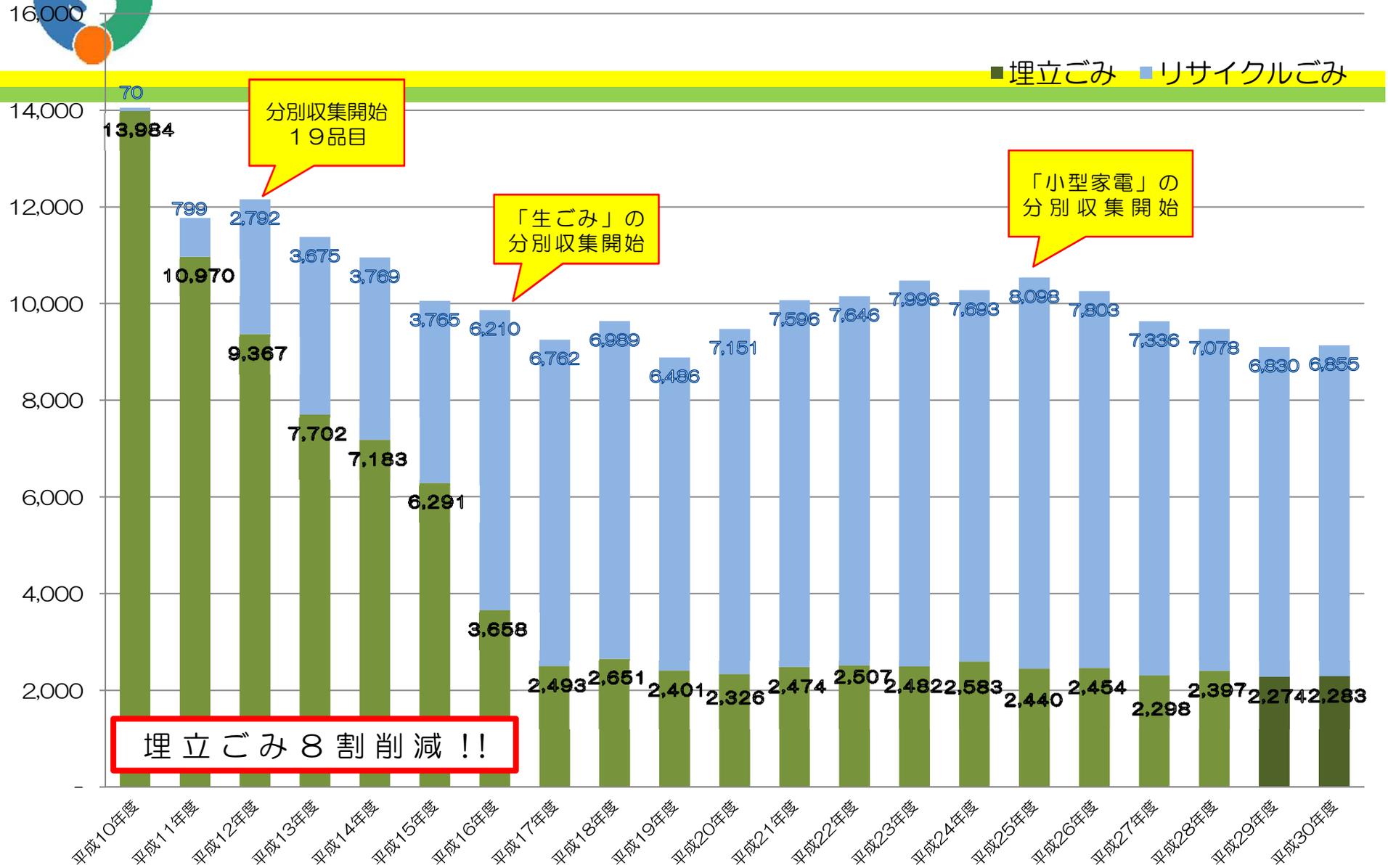


全てのごみを埋め立て処分！

(平成16年度でいっぱいになる設計)

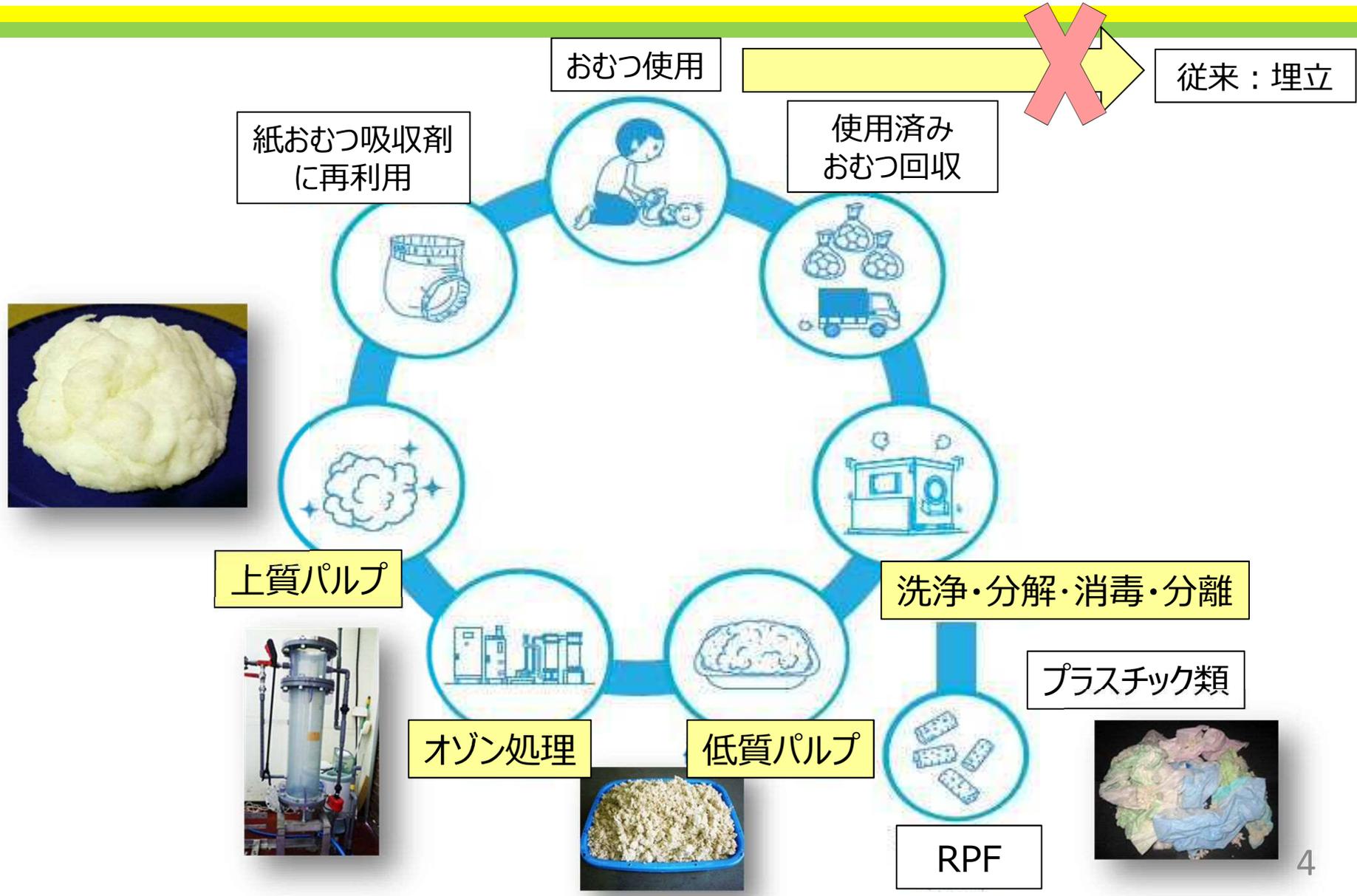


志布志市のごみの推移





紙おむつリサイクルの流れ





紙おむつ

これまでの取組み

年月	取組内容
H19~22	バイオスタウン構想の補助事業で処理施設建設を目指すも、採算合わず断念
H22	使用済み紙オムツのR P F化及びメタン発酵並びに高速堆肥化施設について検討
H24~25	H25.10竣工を目指し、検討再開するもポリマーの処理方法が確立されていないことなどから検討を停止
H28.5	志布志市使用済み紙オムツ再資源化推進協議会発足
H28.11	志布志市、そおりサイクルセンター、ユニ・チャーム（株）の3者で協定締結
	再資源化技術の実証実験開始
	モデル地区において分別収集開始 （志布志市3自治会、大崎町1自治会、2施設）
H29.11.18	志布志市広域紙おむつ再資源化研究会発足（大隅地域4市5町）
H30.4	大崎町を加えた4者で協定締結
R1.8	モデル地区回収の拡大（有明地域川西地区 71自治会）
	4者で使用済み紙おむつ再資源化の実証実験に関する覚書締結



モデル回収の実施

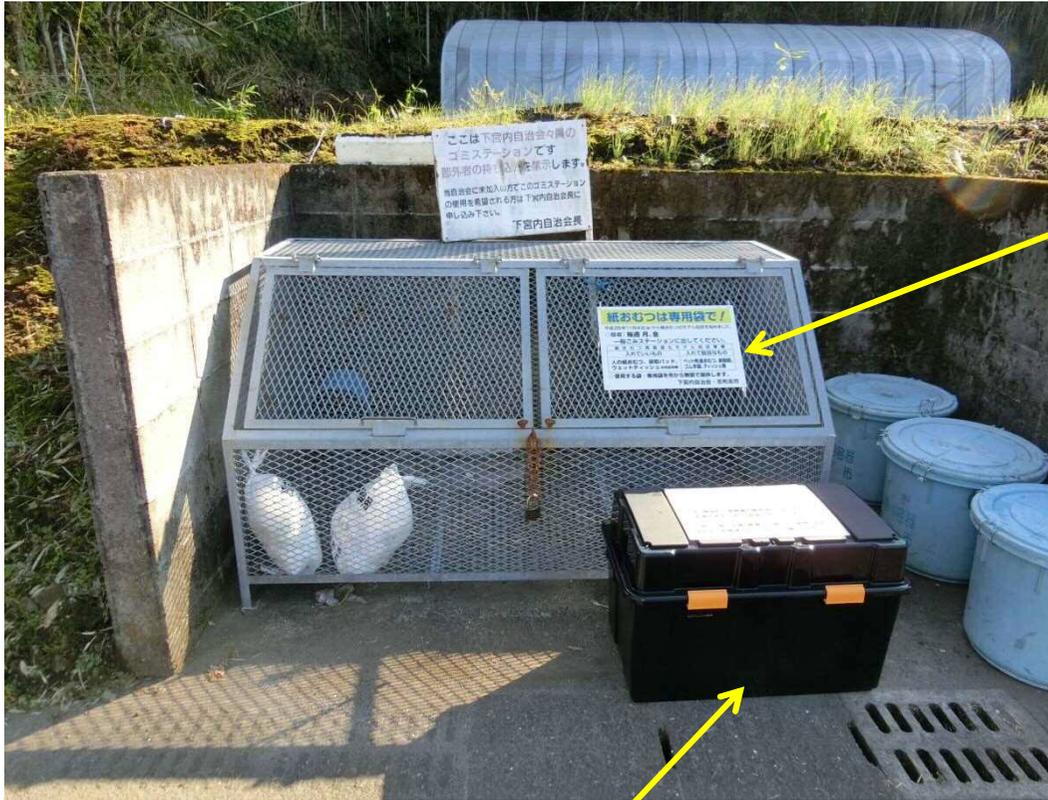
項目	内容
1) 実施期間	平成28年11月1日から
2) 実施箇所	○家庭系 ・志布志町、有明町、松山町、大崎町の4自治会 ・ごみステーション 7箇所 ○事業系 (平成30年3月で終了) 特別養護老人ホーム 1施設、養護老人ホーム 1施設
3) 回収方法	モデル地区専用のパッカー車で回収 H30.4から生ごみ回収車が積合せて回収
4) 回収曜日	月・金の週2回 回収
5) 回収袋	おむつ専用袋を無償配布

令和元年8月からモデル回収地区拡大
有明地域川西地区 71自治会 4,826人
この自治会を対象に説明会を開催しました





排出方法



新品のおむつ専用袋が入っており、必要な方はここから取っていただきます。

紙おむつは専用袋で!

平成28年11月4日(金)から紙おむつのモデル回収を始めました。

◇回収: 毎週 月、金
一般ごみステーションに出してください。

紙おむつ再資源化モデル回収事業	
入れているもの	入れて駄目なもの
人の紙おむつ、尿取パッド、ウェットティッシュ(お尻拭用等)	ペット用紙おむつ、新聞紙、ゴム手袋、ティッシュ等

◇使用する袋: 専用袋を市から無償で提供します。
下宮内自治会・志布志市



袋は大・小2種類



モデル回収実績

- ◆排出量は、75%が子供用
- ◆出された袋の83%が小袋（20 L）
重量ベースでは小袋が76%
- ◆排出量推計による回収率は8割
内容物調査による回収率は9割
（一般ごみで出されたのは1割のみ）
- ◆異物の混入はほとんどない。
（袋外からの目視）

〈志布志・大崎でのH29年度実績〉





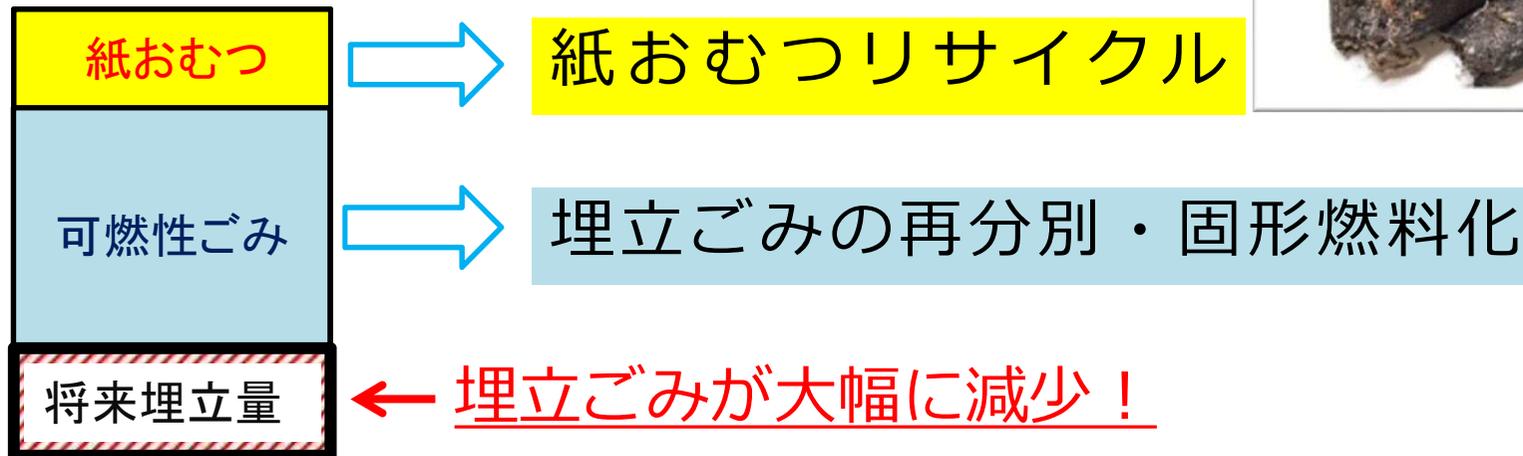
志布志市の目指すもの

紙おむつがリサイクルでき埋立ごみから除かれれば、埋立ごみを再分別し固形燃料（R P F）にできます。

固形燃料化施設も一体的整備することで、最終処分場の負のイメージを、**最終分別ステーションという正のイメージに転換**したい。

（※ H 3 0 ~ 3 1 で環境省の補助金を活用し、固形燃料化の実現可能性調査を実施）

○埋立ごみ削減イメージ





効果① 経済効果等

(1) 最終処分場の延命化効果

埋立ごみの中で紙おむつの占める割合は1~2割。

- ①新規処分場建設コスト減
- ②土堰堤建設コスト減



(2) 一般ごみの再分別が可能に

一般ごみからRPF（固形燃料）を製造し、埋立ごみの大幅削減が可能になる。

(3) 視察の増加

- ・紙おむつから紙おむつのリサイクルは世界初
- ・地球温暖化対策として効果大。志布志から国内外へ普及。

(4) 本地域のイメージアップ・認知度向上

農畜水産物のイメージアップ



効果② 住民サービスの向上等

(1) 収集回数の増加

生ごみと同時に回収することで、
紙おむつの収集が、週1回→週2~3回へ



(2) 紙おむつ専用袋の低価格化

子育て支援、介護世帯の負担軽減

〈モデル自治会へのアンケート調査結果より〉

- 週2回に増えてよかった (47%)
- 回収袋が無料で配られるから協力した。(39%)



リサイクルおむつの地域内循環に向けて

再生パルプから製造した紙おむつの使用には、抵抗があることが懸念されることから、市内の介護施設等に衛生的に問題ないこと、環境にやさしいことをご理解いただきながら、普及啓発に努めていきます。

- (1) リサイクルされたパルプの地産地消
※名刺や市の広報誌等への利用
- (2) 介護施設等へのお願い
※リサイクルおむつの積極使用

〈モデル自治会へのアンケート調査結果より〉
殺菌して安全なリサイクルおむつの購入について、
子供用では「買いたい」が48%だが、大人用では69%と高い。



ものを大切に、人を大切に

使っていらなくなった物は、きれいに洗って出します。

袋には名前を書いて、出したごみに責任を持ちます。

混ぜればごみ、分ければ資源です。

このようにものを大切にする心が
人を大切にする心にもつながっていくと
思います。

